

立体シンポジウム「SDGsと環境とすまい・まち」

# 建築環境における 世界と日本の取り組み

2020年2月

岩村 和夫



東京都市大学名誉教授  
 (株)岩村アトリエ代表取締役  
 UIA 国連SDGs対応常置委員会 委員  
 立体シンポジウム「環境とすまい・まち」プロデューサー



1



## SDGs:建築環境における 世界と日本の取り組み



### 目 次

- 1) 国連SDGs
- 2) SDGsと建築環境に関するUIAの取り組み
- 3) SDGsと建築環境のUIA建築ガイド
- 4) 日本版の編集・発刊
- 5) JIA IPF 2019のまとめ

2

# 1 国連SDGs



「持続可能な開発目標(The Sustainable Development Goals)」は、万人のための質的・量的に持続可能な未来を達成するための青写真である。

それらは、私たちが直面するグローバルな課題、すなわち貧困、不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和、正義等に関する課題に対応する。

個別の目標は互いに関連し合い、誰一人として取り残されないように、2030年までにそれぞれの目標を達成することが重要である。



3

「持続可能な開発のための2030年アジェンダ(The 2030 Agenda for Sustainable Development)」は、2015年に全ての国連加盟国によって採択された。

そのアジェンダの核となったのが、「17の持続可能な開発目標: the 17 Sustainable Development Goals (SDGs)」であり、先進国も開発途上国も、すべての国々がグローバルなパートナーシップによって緊急の行動に移ることを促すものである。

国連は、貧困やその他の窮乏に終止符を打つために、互いに手を携えて健康と教育を改善し、不平等を減少させ、経済成長を図る一方、気候変動に取り組み、海洋と森林を保全する戦略とともに前進する必要がある、と強く認識している。



4

SDGsは、多くの国々と「[国連経済・社会問題局 \(The UN Department of Economic and Social Affairs\)](#)」を含む国連の、数十年におよぶ活動の成果である。

1992年6月にブラジルのリオ・デジャネイロで「地球サミット」が開催され、178ヶ国が「[アジェンダ21](#)」を採択した。それは、人間の生活を改善し、環境を保全する持続可能な開発のためのグローバルなパートナーシップを形成する行動の総合的な計画であった。

2000年9月にニューヨークの国連本部で開催された「ミレニアム・サミット」では、加盟国が全会一致で「[ミレニアム宣言 \(The Millennium Declaration\)](#)」を採択した。このサミットでは、2015年までに極貧を改善するための、8つの「[ミレニアム開発目標: The Millennium Development Goals \(MDGs\)](#)」を策定することとなった。

2002年に南アフリカで開催された「持続可能な開発に関するワールド・サミット」では「[持続可能な開発ヨハネスブルグ宣言](#)」および「[同実施計画](#)」が採択され、アジェンダ21およびミレニアム開発目標に基づく貧困や環境問題へのグローバルな国々による取り組みが再確認され、特に多様な主体間のパートナーシップの重要性が、より強調された。



5

2012年6月にリオデジャネイロで開催された「[国連持続可能な開発会議: Rio+20](#)」において、加盟国は議事報告書「[私達が望む未来 \(The Future We Want\)](#)」を採択した。その中で、とりわけMDGsに基づく一連のSDGsを開発するプロセスの立ち上げを決定し、「[国連持続可能な開発ハイレベル政策フォーラム \(The UN High-level Political Forum on Sustainable Development\)](#)」を創設することとした。

同報告書には、開発基金、小島途上国支援、その他に関する将来のプログラムの必須事項の対策も含まれていた。

2013年の総会で、SDGsに関する提案を取りまとめるための30ヶ国の委員からなる「[公開ワーキンググループ](#)」が設立された。

2015年1月の総会では、2015年以降の開発アジェンダに関する協議プロセスが開始された。

2015年9月に開催された「[国連持続可能な開発サミット](#)」で、そのプロセスの過程として、17のSDGsを核とする「[持続可能な開発のための2030アジェンダ \(The 2030 Agenda for Sustainable Development\)](#)」が採択された。



6

振り返るに2015年は、下記の主要な協定の採択を伴う多国間の国際的政策を形成する上で、記念すべき1年であった。

- 1) 2015年3月: 災害リスク低減のための仙台枠組み (Sendai Framework for Disaster Risk Reduction)
- 2) 2015年7月: 開発投資に関するアジスアベバ行動アジェンダ (Addis Ababa Action Agenda on Financing for Development)
- 3) 2015年9月: 世界の変革／持続可能な開発のための2030アジェンダおよびその17のSDGs (Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development with its 17 SDGs) がニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」にて採択
- 4) 2015年12月: 気候変動に関するパリ協定 (Paris Agreement on Climate Change)

現在は、「国連持続可能な開発ハイレベル政策年次フォーラム (The annual High-level Political Forum on Sustainable Development)」が、SDGsのフォローアップとレビューを行う、国連の中心的なプラットフォームとしての役割を担っている。



7

現在、「国連経済・社会局: The United Nations Department of Economic and Social Affairs (UNDESA)」内の「持続可能な開発課 (The Division for Sustainable Development Goals (DSDG))」が、SDGsおよび関連する諸問題の実質的な支援と能力開発を担当している。それらのテーマには、水、エネルギー、気候、海洋、都市化、交通、科学・技術、「グローバルな持続可能な開発レポート (The Global Sustainable Development Report (GSDR))」、パートナーシップ、小島途上国支援などが含まれる。

DSDGは、2030アジェンダの国連広域組織による実践およびSDGsに関する広報・普及活動の評価の核となる役割を担っている。そして、2030アジェンダを実現するためには、SDGsの広範囲な共有化を、グローバルな目標を達成するすべてのステークホルダーによる強力な取り組みと見なさなければならない。

DSDGはその取り組みの促進を支援することを目的としている。

出典 <https://sustainabledevelopment.un.org/sdgs>



8

## 国連 SDGs の概要



国連SDGs 17のゴール(目標)は、169のターゲット(達成基準)を伴い、さらに232のインジケータ(指標)で測られる



9

## 2 国連SDGsと建築環境に関する UIA(国際建築家連合)の取り組み



The Sustainable Development  
Agenda

The International Union of  
Architects



10

## Mission

人口移動、気候変動そして予期せぬレベルの都市化の時代にあつて、建築家は建築環境の複雑な課題に応えるべき重要な役割を担っている。

国連持続可能な開発目標(SDGs)は、こうしたアジェンダと同時に、貧困の撲滅、地球の保全、グローバルな規模での繁栄を確保といった課題に対処する枠組みを設定した。

**UIAは、この国連による先導的政策と、世界中の建築家の実践的な活動を橋渡せる絶好の位置を占めている。**

従つて、SDGsに直接的に対応する常置委員会を設立することによって、UIAは意識を高め、知識を創造し、コミュニケーションを活発にし、会員のグローバルなネットワークを介して情報を普及する上で、多大な影響力を発揮することができる。

**すなわち、本常置委員会は、建築家が単に持続可能な開発のための新たなアジェンダに対処するだけでなく、その実践と革新において規範的であることを確かなものにするを目的としている。**



11

## Aims

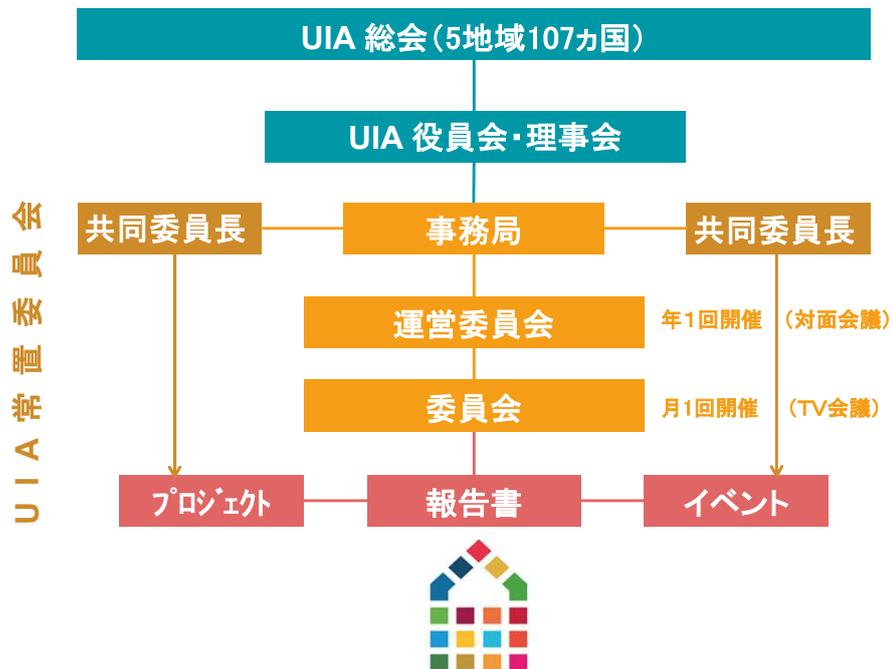
1. 採択・表明された**方針**を通して、17の個々の目標に応答する
2. COPsやWorld Urban Forumといった国連の重要な集まりに積極的に参加し、UIAの**活発な存在感**を目に見えるようにアピールする
3. 持続可能な社会がうまく機能する上での、**建築の重要性**を積極的に訴える
4. UIA会員間の活発な**交流の場**を築きあげる
5. 本常置委員会の方針を、できるだけ広範囲に**普及**させる



12

## Structure-1

(2019年11月現在)



13

## Structure-2

(2019年11月現在)

以下の運営委員は、UIAの5地域を代表し、その事務局はコペンハーゲンに置かれている。

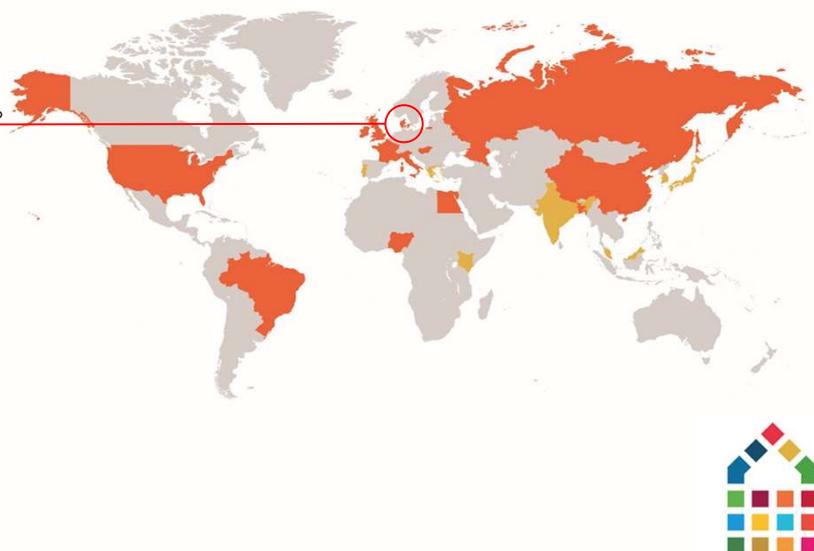
共同委員長 (2カ国2名)

運営委員 (9カ国9名)

UIA理事 (2名)

委員 (日本を含む9カ国12名)

事務局員 (2名)



14

## 3

## UIA 17 SDGs 建築ガイドの概要

2018年12月



Original Book in English edited by : The Institute of Architecture and Technology at The Royal Danish Academy,  
The Danish Association of Architects and  
The UIA Commission on the UN SDGs

Summarized by Kazuo IWAMURA (Member, UIA Commission on SDGs & Chair, JIA Editing Committee of SDGs )

15

## INTRO

17の国連SDGsは、より持続可能な未来を実現するために国連を構成する人々の願いを端的に記述したものである。

この目標は、全ての人々にとって、より良く、より持続可能な未来を達成するために必要な取組課題を定義づけている。そして、貧困、不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和、正義などといったことに関する、我々が直面するグローバルな問題に取り組んでいる。それぞれの目標は互いに深く関連づけられ、誰一人として取り残されず、各目標を2030年までに達成できるよう、全世界がこの重大な行動に移らなければならない。

建築環境、プランニング、建築、およびデザインは各目標と相互に作用する。そして最も重要なことは、単に望ましいレベルや未来の可能性の記述に留まらず、世界中に実現した建物、施設群、都市によるものである。建築的な答えは既に至るところに存在し、持続可能なコミュニティや生活の質の向上に貢献している。しかしながら、建築環境もまた現在の課題、すなわち、エネルギーや天然資源の主要な消費者の一部である。さらに、建物の建て方によっては不平等をさらに悪化させ、健康を害する恐れがある。

16

以上の理由で、デンマーク王立美術アカデミー建築学部デザイン・保存学科建築技術研究所、デンマーク建築家協会、UIA国連SDGs対応常置委員会は、目標の達成に向けて本建築ガイドを2018年12月に作成した。我々は、このガイドブックによって建築環境と目標との関係を明示し、建築家や建築環境に関する当事者が、課題に積極的に取り組むことを期待するものである。我々一人ひとりが、目標の実現に寄与することが求められているからだ。

本書の意図は目標の達成に向けた建築ガイドを提供することである。17の章立ては各目標の国連による定義づけを示したうえで、その建築環境との相互関係を概説し、建築的な貢献を彩る既の実現したプロジェクトの事例で構成されている。

その多くの事例は一つ以上の目標に関連しているが、ここでの目的は持続可能なプロジェクトの全体像を詳述することではなく、目標が建築と関連している概要を理解することである。前述した通り、全てのケースは実際に完成した建築プロジェクト、プランニング、構造等である。我々の望むことは、これらの事例が、いかにして建築環境がそれぞれの目標に寄与できるのかについて議論を始めるための基盤を提供することである。

17

この建築ガイドの初版においては、各目標につき2～3事例を示した。その多くはデンマークの事例である。今後の版ではプロジェクトの範囲を拡大する予定であり、2020年に出版予定の第2版に収録されるべき多くの事例の提案を歓迎する。それは建築家と建築がいかに目標の達成に寄与できるかを示す、既の実現したものに限る。本ガイドに掲げた各事例はインスピレーションを与え、注目すべきものだが、建築環境がいかにして目標の達成に寄与できるかという問いに対する最終的な解答ではない。それは一つの答えだけではないからだ。

目標の達成に向けて行動するには、地域の気候、文化、課題に適用される数多くの新たな答えが必要であり、それも理念としてだけでなく、地上に実現し、実際に使われているものである。建物、まち、プランニングの実例を通して、その効果が環境および生活の質の向上が達成できる実態を知ることができる。

本書は建築、プランニング、デザインの将来を形作る建築の学生、建築と目標との間の関係性を理解することで彼らを支援する政治家、そしてこれからの集合的な課題に取り組むすべての市民、専門家、組織のために作られた。それは地球を保全しつつ社会のニーズに応えることに他ならない。

本書編集委員会



18

## UIA SDG ダッカ宣言

(2019年4月13日調印)

建築は、その17のSDGsの一つ一つと関連し、しかも建築家はその目標の達成に向けて貢献することができる。

すなわち、我々は建築家として、より良い建築、まち、ランドスケープ、そして都市計画を実践することによって、建築環境を通して世界をより良いものに変革する選択をするように仕向ける社会的責任がある。

そこで我々は、世界中の建築家に呼びかけ、SDGsを達成するために、自身の仕事で行動を起こすとともに、市民社会のリーダーとしての言動をとるよう訴えるものである。

1. **貧困をなくそう**：建築家は、安全で、健康で壊れにくい、ローコストな住宅や施設をデザインすることによって、貧困をなくせるようなやり方で建築にかかわることができる。
2. **飢餓をゼロに**：建築家は、計画、ランドスケープおよび建築デザインを通して、エコ・システムを守り、食糧生産のための地域を保全することができる。
3. **すべての人に健康と福祉を**：建築家はデザインによって、人々が伝染病や汚染に晒されることを減らし、昼光や、良好な音響や空気を確保し、健康なレベルの活動を促すことができる。
4. **質の高い教育をみんなに**：建築家は、安価で手に入りやすく誰でも使える教育施設をデザインすることができる。
5. **ジェンダー平等を実現しよう**：建築家は、性差にかかわらず、あらゆる市民に開かれた建築、まち、都市域を形成するとともに、デザインや建設産業におけるジェンダーの平等な状況を広めることができる。
6. **安全な水とトイレを世界中に**：建築家は、水の無駄遣いや過剰な排水を回避し、淡水の帯水層や水域に塩水の侵入を減らすことができる。
7. **エネルギーをみんなにそしてクリーンに**：建築家は、エネルギー消費を削減し、コストが見合えば、地理的、気象的、文化的条件に応じて再生可能なエネルギーを作り出せるように、建築やまちをデザインすることができる。
8. **働きがいも経済成長も**：建築家は、建築材料が安全でクリーンな環境で生産されているか否かを確認でき、建設現場や解体現場における公平で安全な状況を確保するように努めることができる。
9. **産業と技術革新の基盤をつくろう**：建築家は、汚染、エネルギー消費、廃棄物を減らし、安全で、健康で、コストのかからないサービス、製品、システムを活用することができる。



19

## UIA SDG ダッカ宣言 (続き)

10. **人や国の不平等をなくそう**：建築家は、誰でもが参加でき、すべての人々のニーズを満たし、社会的責任がとれるようなデザインおよび計画の進め方を広めることができる。
11. **住み続けられるまちづくりを**：建築家は、社会の弱者層に特別な注意を払いながら、都市を誰にでも開かれた、より安全でより強靱なものにし、予想される気候変動にも耐える対策を広めることができる。
12. **つくる責任、つかう責任**：建築家は、建築部材や材料の耐久性や長寿命性を旨ざしてデザインし、改修やリサイクル材料の活用を進めることができる。
13. **気候変動に具体的な対策を**：建築家は、自らデザインする建築の建設および使用に伴う気候変動物質の排出を削減するとともに、そのデザインを予想される気候変動に適応したものにすることができる。
14. **海の豊かさを守ろう**：建築家は、沿岸地域や繊細な水域エコシステムの中にある建物やまちに対して特別の注意を払い、流出物や建築廃棄物によって水質汚染を招かないよう努めることができる。
15. **陸の豊かさを守ろう**：建築家は、都市のスプロールを最小化し、生物多様性への脅威を減らす都市開発の普及を図ることができる。また建物やまちのデザインにランドスケープを取り込み、生物多様性を確保し、より大きなエコ・システムにつなぐことができる。
16. **平和と公正をすべての人に**：建築家は高い価値観をもって設計の仕事を行い、市民と関わり、誰でもが受け入れられる状態の実現を目指し、公正な自己統制をもって行動することができる。
17. **パートナーシップで目標を達成しよう**：建築家は、SDGsを達成しようとするさまざまな人々との共同によって、豊かで持続可能な未来を実現することができる。



20

## UIA SDGs 建築ガイド

本ガイドは、デンマーク王立美術アカデミー建築学部デザイン・保存学科建築技術研究所、デンマーク建築家協会、およびUIA SDGs対応常置委員会が共同し、目標の達成に向けた活動の一環として、2018年12月に刊行された。



Edited & published in December 2018  
by KADK, Danish Association of Architects  
and UIA SDGs Commission

AN ARCHITECTURE GUIDE  
to the UN 17 Sustainable  
Development Goals



21

1 NO  
POVERTY



あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

建築が人々を貧困から引き上げられるわけではないが、建築環境は手に入れることのできる住宅や組織を通して、人々の生活に与えるインパクトを緩和する影響を与えることができる。



**Origin/team**  
Anupama Kundoo with  
technical support from  
Ray Meeker, Volantariat NGO, M.  
Vinayagam

Photo: Alka Hingorani

### 1-1. Volantariat Home for Homeless Children

Pondicherry,  
India

- ① ホームレスの子供と里親のための住まい
- ② アフオーダブルな住まいの類型の実験住宅
- ③ 現場で焼成する泥土住宅
- ④ 地域の自然資源、技術の活用
- ⑤ 窯としての住宅によるセラミック製品の現場製造
- ⑥ 廃棄材のアップサイクル



Photo: Sonja Winkler

22



飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

建築環境は、現在のエコ・システムを保全し、食糧生産のための面積を保全、拡大することを優先するプランニング、ランドスケープ・デザイン、複合建築によって食糧供給を確保することに貢献できる。



Photo: Abdellah Ihdian

## 2-1. Impact Farm

Radonia,  
Denmark

- ①ローカルな農業の活用による資源・時間の節約
- ②資源効率を高める新たな水耕栽培システム
- ③淡水使用量の削減
- ④リース、移動可能な構造
- ⑤食糧地産地消の再考とコミュニティの育成と教育
- ⑥併設した社会施設を活用したイベント、意識の高揚

Origin/team  
Human Habitat,  
Miljøpunkt Nørrebro,  
Rødovre,  
København Professionshøjskole

Photo: Human Habitat



23



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

殆どの人は生活の大半を室内で暮らす。したがって、室内気候は健康に多大な影響を及ぼす要因である。



## 3-3. Maggie's at the Robert Parfett Building

Manchester, UK

- ① 癌患者とその家族を社会的に支援するマギーズ・センター
- ② 建築が寄与できる癒やし(静寂・清浄な空気)の役割: 空間、色彩、音、安心、快適性
- ③ 自然光、緑、眺望に配慮した「家から離れた家」
- ④ 個人的ニッチ、図書館、運動室、集会・喫茶室等の多彩な空間の中心に厨房と共用大食卓
- ⑤ 温室内外での治癒効果を楽しめる多彩な仕掛け

Origin/team  
Foster + Partners,  
HE Simm, Gardiner & Theobald,  
Dan Pearson Studio,  
Maggie's



Photos: Nigel Young-Foster + Partners

24

## 4 QUALITY EDUCATION



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

学校や教育空間は、未来のための投資対象として最も重要な一部である。



## 4-3. The Community Dome

Za'atari Village,  
Jordan

- ①シリアからの非合法難民キャンプでは教育施設がない
- ②「難民の子供達に100の教室を」運動の目的は、移動可能な簡略な学校を提供すること
- ③そして、その技術を参加型ワークショップで普及すること
- ④NGOヨルダンを変える運動と協働し、子供のための空間をスーパー・アドベ構法で実現
- ⑤その技術を地域に伝えることで、生計と地域社会を強化

## Origin/team

Emergency Architecture  
& Human Rights (EAHR),  
Acting for Change Jordan,  
Social Science advisor:  
Jawhara Hammuh



Photos: Martina Bo Rubino

25

## 5 GENDER EQUALITY



ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女性のエンパワーメントを図る

ジェンダーの平等に向けた運動を支援するために、建築、まち、都市のデザインが、性差に拘わらずあらゆる市民に開かれたものでなければならない。



Origin/team  
VEGA Inderstøb  
Rebild Municipality  
Frandsen & Søndergaard  
Skørping School management

Drøn på Skolegården:  
Realdania,  
Lokale og Anlægsfonden,  
Kraftens Bekæmpelse

Photo: Leif Tuxen  
for the Danish Foundation for Culture  
and Sports Facilities

- ①男性と女性は身体的運動に関わる空間的嗜好性が異なる
- ②本プロジェクトの目的は、女児の積極的な身体的運動の促進
- ③クラスター状に分散した遊び場と樹林との融合と、そのルートに木製の多様な要素を配置
- ④そこにグループワーク用のラウンジ、スクリーンの設置と、安全な「エッジゾーン」として様々な子ども達に開いた施設構成
- ⑤その結果、女児の運動への取組が増加した

## 5-3. Wonder Wood – a loop of movement

Skørping,  
Denmark



26



すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

きれいな水が希少な地域で雨水を利用するには、建築および市街地は雨水を集水し、浄化し、飲み水として使えるようにデザインしなければならない。



Origin/team  
Architecture and Vision  
(Arturo Vittori, Warka Water Inc.)

### 6-1. Warka Tower

Dorse,  
Ethiopia



- ①エチオピアの健康問題は安全な水と衛生施設の不備に起因
- ②ワルカ・タワーはそんな地域のための水資源供給施設で、大気の蒸気から結露と重力によって水を抽出する
- ③従って、地域の村人が操作でき、同時に天蓋の日陰、や木陰で学校や集会が開けるコミュニティの共用空間を兼ねる
- ④また、地域産の生分解で100%リサイクル可能な材料を使用
- ⑤建設、メンテも村人が簡易にできるようにデザインされている

27



安価で信頼できる持続可能な新しいエネルギーをみんなに確保する

建築環境はエネルギー消費の主な原因であり、その一方でエネルギーを生産できる大変大きな能力を持っている。



Photos: Lin Ho

Origin/team  
Paramit Malaysia Sdn Bhd,  
Design Unit Sdn Bhd,  
IEN Consultants Sdn Bhd

### 7-3. Paramit – factory in the forest

Penang,  
Malaysia



- ①建築のデザインがエネルギー性能とエコロジカル・フットプリントを左右し得る
- ②本事例は工場、倉庫、オフィスからなり、医療器具の研究・製造・サービスを行っている
- ③気候条件に適したエネルギー効率の高い設計で、以前の工場に比し45%の消費削減を達成
- ④ルーバー状の屋根で遮光し、樹木・植栽の日陰と蒸散効果等、パッシブな環境制御を実践

28

## 8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH



包括的かつ持続可能な経済成長及び、全ての人の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

建築環境は、働きがいのある仕事と経済成長に、その計画レベルと建設レベルの両方で相互関係がある。

### 8-3. Moving Schools

Goa, India



Origin/team  
Mette Lange Architects,  
Anders Linnet



- ①インドでの出稼ぎ労働者は1千万人に上り、同伴する子供達の教育が大きな問題である
- ②本「動く学校」は、水に浮いたり、陸路を移動できたり、折りたためる移動可能教室である
- ③ゴアでは河岸の砂利採取で集まった季節労働者のための教室が浮き板の上に初めて建てられ、その後陸上用が開発された
- ④最新版はテント状の移動可能な教室である

29

## 9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE



レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、及びイノベーションの推進を図る

建設産業は大量の廃棄物を生み、膨大な量の天然資源やエネルギーを消費する。

Origin/team  
Smile Plastics,  
Adam Fairweather  
and Rosalie McMillan

Architecture:  
Clifton Park project by  
Marsh Grochowski Architects



①1950年以来90億トンのプラスチックが生産され、内約70億トンが廃棄物となった。その10%以下しかリサイクルされておらず、生分解には大変な時間がかかる

②事例の開発企業はアートと技術を統合し、広く社会にスクラップの持つ意外な美を訴えた

③そして、全ての材料は手作りで、100%リサイクル、アップサイクルできる無害なプラスチックでできている

④その利用範囲はインテリアの仕上げから、外壁の被覆材に至るまで非常に名場広く、材料のリサイクル資源も多彩

### 9-2. Plastic: recycled and hand-crafted



Photo: Smile Plastics

30

## 10 REDUCED INEQUALITIES



各国内及び各国間の不平等を是正する

建築環境は、格差を増大、強化するものとしての役割を演じてしまうことがある。



Photo: Marko Huttunen

Origin/team  
K2S Architects LTD  
Helsingin seurakuntayhtymä  
Insinööritoimisto Vahanen Oy  
Pakrak Oy

## 10-1. Kamppi Chapel of Silence

Helsinki,  
Finland

- ①日常生活に忙殺される誰もが、時に心の癒しとなる空間と時間を必要とする
- ②しかし、これまでその多くは特定の集団や個人の利用に限定され、相互交流も限定的だった
- ③本チャペルは宗教、信条、出自に拘わらず、インクルーシブな癒しと平和のための空間を持つ
- ④賑やかな中心市街地にあつて、フィンランド産の木材で曲面が構成され、彫刻的にデザインされたその建築は、温かい雰囲気と快適な音響環境を市民に提供している



Photo: Tuomas Uusheimo

31

## 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



包摂的で、安全かつレジリエントで、持続可能な都市及び人間居住を実現する

建築環境は、持続可能な都市やコミュニティの発展にとって極めて需要である。

## 11-1. Low Impact Living Affordable Community

Leeds, UK

- ①都市も建築も、そのデザインによって安全でレジリエントな環境を創出し、効率の高い資源・エネルギー利用を促進しなければならない
- ②本事例の「低負荷型生活の、アフォーダブルコミュニティ(LILAC)」とは、プライベートな領域と共用施設を混在させたコ・ハウジングである
- ③その中には緑地で囲まれた家事施設のあるコミュニティハウスがあり、社会的交流を促進する
- ④建築的には、地域産材を多用したプレファブ構法とストロー・ベールや、高効率の設備等との組合せによって、極めてエネルギー消費の少ない快適な住環境が生まれた
- ⑤また、カーシェアリング、設備・工具の講習、共同食卓会、菜園栽培等が運営されている



Photo: White Design

Origin/team  
The Architecture and Landscape was Co-Designed by LILAC and White Design, Lincoln, ModCell, Integral Engineering Design, Projecta, BWA, coho-td

32

## 12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION



持続可能な生産と消費のパターンを確保する

建設産業は、廃棄物を生み出す主な産業の一つである。

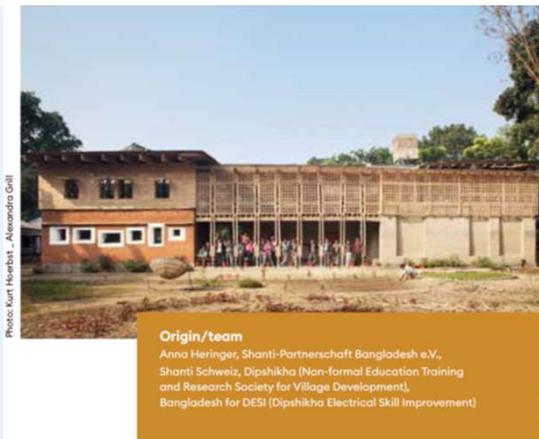


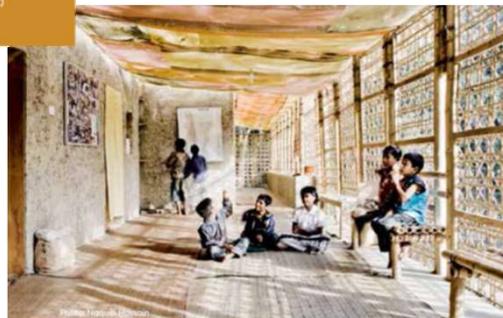
Photo: Kurt Heerbst - Alejandro Grill

## Origin/team

Anna Heringer, Shanti-Partnerschaft Bangladesh e.V., Shanti Schweiz, Dipshikha (Non-formal Education Training and Research Society for Village Development), Bangladesh for DESI (Dipshikha Electrical Skill Improvement)

## 12-1. DESI Training Center

Rudrapur,  
Bangladesh



- ①途上国では家内産業や自給自足に依存してきたが、生活の都市化や近代化とともに輸入材の急増等により建築のカーボンフットプリントが増大
- ②本事例はバングラデッシュの寒村に伝統工法と近代構法を結合して建設された職業訓練学校
- ③パッシブな自然エネルギー利用、空間構成の合理化、地方の文化に根ざした美学やライフスタイルの尊重、セルフビルドにより、住民が誇れるアフォーダブルで美しい学びの場が実現した

33

## 13 CLIMATE ACTION



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策をとる

建築環境のCO<sub>2</sub>フットプリントは削減しなければならず、建築やまちは変動しつつある気候に適應できるようにしなければならない。



Origin/team  
Kongjian Yu, Turescape,  
The Municipal Government  
of Harbin City

## 13-1. Qunli Stormwater Park

Harbin,  
China



Photos: Kongjian Yu, Turescape

- ①都市の洪水対策として、習近平主席は「都市はスポンジのようであればならない」とし、中国における急激な都市化に、伝統的な手法を再導入した
- ②本事例はその「スポンジ・シティ」の政策に準拠したランドスケープ・デザインである
- ③そして、ハルビン市の新地区の広大な公園かつての湿地を再生し、気候変動に対応した
- ④この湿地は開発地域からの雨水の貯留・浄化するとともに、自生する豊かな植物景観をもたらす

34



海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

殆どの建築環境は陸上にあるが、その活動は海洋に影響を及ぼす。



Origin/team  
Fischer Lighting,  
OXN/OXN, Plastix

Photo: Adam KR

## 14-1. Fischer Family 'August'

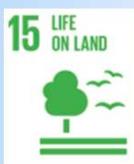
Copenhagen,  
Denmark

Photo: Fischer Lighting



- ① 持続可能な建築は、そのすべての部材や建材が循環的に利用できるように配慮すべきである
- ② 特に生産されるプラスチックの2割が建設産業で消費されるため、そのリサイクルに大きな可能性を秘めている
- ③ 本事例は既存の照明器具にエネルギー消費の少ないLED灯具の適用を可能とし、かつ全ての部材を再利用、リサイクルできるように開発した灯具である
- ④ 特に近年頻発する「幽霊漁網」の「幽霊漁業」に鑑み、本製品ではこの幽霊漁網を原料とし、アップサイクルした素材を開発し、デンマーク国立水族館に設置された

35



陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

陸地を占拠する建築、まち、都市の量的拡大が急速に進んでいる。



Photo: Kongjian Yu, Turenscape

Origin/team  
Kongjian Yu, Turenscape,  
Yang Lina, The Landscape Bureau,  
Qinhuangdao City, Hebei Province,  
and Peking University Graduate  
School of Landscape Architecture  
in Beijing

## 15-1. Red Ribbon Park

Qinhuangdao,  
China



- ① 建築の自然への介入と保全のバランスを取ることで、高密度な地域で野生生物を保護し、かつ緑豊かなエリアへのアクセスを確保する
- ② 本事例はリクリエーションのためのランドスケープ建築で、上記の目的に応えるものである
- ③ 印象的な赤いリボン状のオブジェが河岸に沿って湾曲し、様々な要素が統合されたオープンスペースに人々を誘う
- ④ 遊歩道は市民のための川と湿地に向かうアクセス路である

36

## 16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS



持続可能な開発に向けて、平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に四方へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

議会、裁判所、公立図書館は、公正で平和な社会の要であり、一方地域のコミュニティ・センター、祈りの場、避難所は包摂的で思いやりのある社会に対する市民の係わりを代表しうる。



Photo: SLA Architects

## Origin/team

ICC, SLA Architects, Schmidt Hammer Lassen Architects, Royal Haskoning Nederland B.V. and Eabensen - Consulting Engineers AS, Brink Groep, Courtys

## 16-1. The International Criminal Court in Hague

Hague, Netherlands

①ICCのような施設は、その安全性を保持しつつ、透明性と非排他的な公的領域としてデザインするジレンマを抱えている

②本事例では、いわゆる反テロ建築としてその両立を試みた

③設計チームは、具体的にテロの防止、独自性の確保、気候への適応、降雨の制御対策、訪問者、従業員の安全等、多彩なテーマに取り組んだ

④この施設の持つ国際的な意義を、生物多様性の中庭で象徴的に表現している



Photo: Tobias Petermann

37

## 17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS



持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

各都市は、多くの人の手によって作られる。それと同じように、17のSDGsに到達するには、当事者の一人だけでは不可能であるから、協働することが不可欠である。

①ラテンアメリカでは多くがスラムに住み、苛烈な住環境と極度の貧困に晒されている

②この課題に取り組むため、青年主導によるNPOのTECHOが設立された

③その戦略的な主な目的は以下の3つである

I : スラムの地区開発の促進

II : 社会的意識と行動の強化

III : 政治的影響力の拡大

④以上を実現するため、投資や人的支援をもたらす国際的企業とのパートナーシップに注力



Photos: TECHO

## Origin/team

TECHO is based in Miami, Florida and New York, NY.



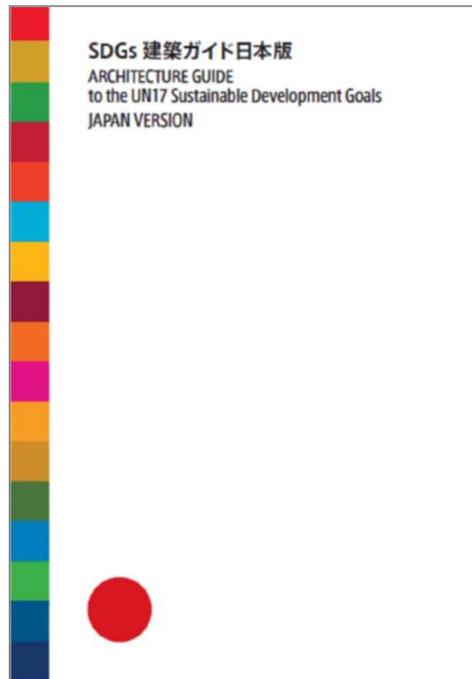
## 17-1. TECHO – a youth led non-profit organization

Based In Miami, Florida & NY, USA

38

# 4 日本版の発刊

「JIA（日本建築家協会）SDGs建築ガイド日本版特別委員会」は、約250の候補事例から計50の作品を選択し編集した日本版を、10月初旬に発刊した。



## 日本の50事例

全事例の一覧図・表  
Map and list of the whole collected practices



- 101 丸の内線中野第二京急公営住宅  
Maru no Uchi Line Chuo 2 Keio Public Housing
- 102 Good Job! Center KASHIBA  
Good Job! Center KASHIBA
- 103 車山山農産物直売所  
Kurayama Sansei Jomoku Direct Sales Center
- 104 新島農業研修センター  
Shimajiri Agricultural Training Center
- 105 内子アレンジャーパークからり  
Uchi-no-ko Park (KASABA)
- 106 広島県民球場  
Hiroshima Municipal Baseball Stadium
- 107 広島こども医療センター  
Hiroshima Children's Hospital for Environmentally Disturbed Children
- 108 竹の谷別荘(家並)  
Takeshiya Ryokan (Architecture)
- 109 山形県立山形小学校  
Yamagata Prefecture Yamanagashi Elementary School
- 110 舞野レイクサイド・ヨーロッパスクール  
Maeno Lake Side Europe International School
- 111 ふじようちえん  
Fuji Kindergarten
- 112 辰野 大井町駅前パブリックスペース  
Tatsuno Ohtsuka Station Park and Public Space (Chiyomasa)
- 113 香高ランドリー  
Kaotaka Laundry
- 114 さいのりニク  
Sai no Riku
- 115 緑のクリエーション  
Green Creation (Tree House not built)
- 116 認定こども園第一幼稚園  
Teikyo Kindergarten (1st Kindergarten)
- 117 宮城県立少子高齢者学習センター  
Miyagi Prefecture Environmental Science Center
- 118 車山山の原  
Kurayama no Hara
- 119 沖崎農産物直売センター  
Okiwaki Agricultural Direct Sales Center
- 120 東部地域開発ふれあい拠点施設  
Eastern Tohoku Regional Development Center
- 121 ROKIC Global Innovation Center -ROGIC-  
ROKIC Global Innovation Center -ROGIC-
- 122 コープ共済プラザ  
Kaiyo Kyosei Plaza
- 123 八潮町役場庁舎  
Yachiyo Town Hall
- 124 白河アーチセンター  
Shirahama Arch Center
- 125 広島県環境再生工場  
Hiroshima Prefecture Environment Regeneration Plant
- 126 香取川リニアアート  
Hamaoka Chromatica
- 127 八木坂一丁目(広島市市民交流センター)  
Yatsukasa 1-chome (Hiroshima City Community Center)
- 128 Share 倉沢  
Share Kurazawa
- 129 志田市立志田小学校中学校 志田公民館センター こども館兼倉  
Shikata City Shikata Elementary and Junior High School  
Shikata Citizens Center Children's Museum and Learning Hall
- 130 代官山ビルワイドテラス  
Yokoyama Building Wide Terrace
- 131 NEXT 21  
NEXT 21
- 132 木造賃貸住宅群  
Timber Rental Housing Group
- 133 大島精製物産館  
Oshima Seisaku Bussan Kan
- 134 東京駅丸の内駅舎保存・復原  
Tokyo Station Marunouchi Station Marunouchi Building Preservation and Restoration of the Tokyo Station Marunouchi Building
- 135 永倉町の住宅  
Eikura no Ryokan-cho
- 136 和歌山の逃げ場回プロジェクト  
Wakayama No Nigehaiwaikai Project
- 137 こうのすまい  
Kou no Sumai
- 138 千早希望の丘  
Chihaya no Nozomi no Dake
- 139 上越市立本丸博物館 うみかたり  
Jozei City Honmaru Museum Umi Katari
- 140 下関市地産地消市場魚市場  
Shimonoseki City Local Wholesale Market
- 141 ガンシウ  
Ganshou
- 142 道の駅まじこ  
Michi no Eki Majiko
- 143 小島町民体育館「小島ドーム」  
Oshima Town Sports Center "Oshima Dome"
- 144 青森県立青森県立総合センター  
Aomori Prefecture Aomori City Center
- 145 三葉県立歴史民俗センター  
Miyama Prefecture History and Folklore Center
- 146 シンクホールプラザ アーレ長崎  
Sink Hall Plaza Arale Nagasaki
- 147 若人いびきセンター  
Wakonami Ibi Center
- 148 香取21世紀美術館  
21st Century Museum of Contemporary Art, Kazusaki
- 149 ボランタリー建築物協議会  
Voluntary Architectural Association (VAA)
- 150 日本建築協会 (JIA) 災害対策会議  
Japan Association of Architects (JIA) National Conference on Disasters
- 151 環境共生住宅研究会協議会  
Environmentally Symbiotic Housing Council

## JIA日本版の構成

ゴール番号 Goal number	17色アイコンカラー 17 icon colors	メインタイトル・サブタイトル Main title, Subtitle	17色正方形アイコン 17-color square icons	名称 Title	建築事例番号・事例の所在地/設計者/建築主/竣工年 Example number, Location/Architect/Client/Year of completion
1	貧困をなくそう NO POVERTY Let's make sure that no one is left behind	貧困をなくそう Let's make sure that no one is left behind		矢吹町中町第二災害公営住宅 Public Reconstruction Housing in Nakabuchi 2-Fubuki	  
ゴール解説 Goal description	建築環境の役割 (太字)・取組概要 (細字) Role of architectural environment (bold font), Overview of architectural approach (regular font)	取組課題・貢献内容 Challenge, Contribution	写真・図版 Photos, Illustrations		

41

## 日本の代表例

4 質の高い教育を  
みんなに

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

学校や教育空間は、未来のための投資対象として最も重要な一部である。



## ふじようちえん

Fuji Kindergarten

4-3

東京都立川市  
手塚貴晴+手塚由比 (手塚建築研究所)  
学校法人みんなのひろばふじようちえん  
Tachikawa City, Tokyo  
Takaharu TEZUKA+Yui TEZUKA  
Head of Fuji Kindergarten  
2007

### 取組課題

子育ての拠点として乳幼児の就学前教育環境の整備が重要であり、預ける側のさまざまな働き方に対応して、融通性に富んだ管理・運営が望まれている。

また、立地特性から、園児が遊びまわのに十分な屋外空間が取れない保育園や幼稚園もままあるが、子育ての一端を担う施設として、幼児の創造性を育む環境をつくり出す工夫が必要である。

### 貢献内容

この園舎は、すべての要素を子供のスケールにして、園児の自由な行動を誘う開放的な空間となっている。真中に園庭があり、屋上も遊び場になっているので、園庭側の天井高を2.1mに抑え、屋上と地上の距離を縮めている。ウッドデッキ仕上の楕円形の屋上では、子供たちが原っぱや野山を走り回るように行き止まりのない追いかけてを繰り返している。

保育室は子供が持ち運べる大きさと重さの家具を積んで、ゆるやかに区分されている。また、ウッドデッキ下の空気層と天井断熱材により夏季の室内温度上昇を抑えつつ、自然通風を活用して快適な室内環境を確保している。

発注者と建築家が生み出した類例のない幼稚園である。



035

42

## 日本の代表例

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

レジリエントなインフラ  
構築、包括的かつ持続  
可能な産業化の促進、  
及びイノベーションの推  
進を図る。

建設産業は大量の廃棄物  
を生み、膨大な量の  
天然資源やエネルギー  
を消費する。



43

## 広島市環境局中工場

Hiroshima Naka Incineration Plant

9-2

広島県広島市  
谷口吉生 (谷口建築設計研究所)  
広島市  
Hiroshima City, Hiroshima Pref.  
Yoshio TANIGUCHI  
Hiroshima City  
2004

## 取組課題

これまでゴミ処理の工場は機能を直接的に満たすことを超えた配慮をして設計された事例が少なかった。現代都市に不可欠な公共施設の新しいあり方を求めて、広島市により適任の設計者が選定された結果、ゴミ処理に関する啓蒙活動に貢献し、市民に受け入れられる都市のゴミ処理施設のあり方を提起する重要な施設が完成した。

## 貢献概要

広島湾岸を埋め立てた造成地にあり、広島市内から敷地に向けて主要幹線道路が突き当たる場所に建つ。幹線道路の延長線上のアトリウム空間にごみ処理や環境保全のための機械が立ち並び、そこを貫通するガラス張りの大空間は市民に開放された公共空間となっている。

巨大なボリュームを周辺の建物スケールに合わせて分割した構成により、建物が都市景観に溶け込んでいる。「町側からガラスの通路を通して工場を抜けると、目の前に広島湾が開ける。そこを公共の公園とした。

人々は工場を通過するたび、美しい水辺を守るために巨大なフィルターが都市のごみを浄化していることを体感する」という設計者の言葉がこの建築の意義を象徴している。



97

## 日本の代表例

10 人や国の不平等  
をなくそう

各国内及び各国間の不  
平等を是正する。

建築環境は、格差を増大、  
強化するものとしての役割  
を演じてしまうことがある。



44

## Share 金沢

Share Kanazawa

10-2

石川県金沢市  
西川英治 (五井建築研究所)  
社会福祉法人佛子園  
Kanazawa City, Ishikawa Pref.  
Eiji NISHIKAWA  
Social Welfare Corporation Bussien  
2014

## 取組課題

人口に対する高齢者の割合が高くなることで、非高齢者想定した機能の分離を前提として建築をつくることが意味をなさなくなりつつある。

また、働き手が減少している状況からしても、社会の活力を維持するためには、世代・性別・障害を越えてあらゆる人々が共に生きることのできる建築のつくり方を、積極的に推進することが重要になってきている。

## 貢献内容

健常者と障害者、高齢者と若者が、温泉・レストランを媒体としてつながり、共に暮らす、「街」のような施設である。

福祉施設としては児童入所施設、児童発達支援センター、高齢者デイサービス、生活介護・車イス対応バリアフリー住宅が複合し、健常者が暮らす施設としてはサービス付き高齢者向け住宅、学生住宅がある。

さらに、高齢者向け住宅の住民を中心に、仕入れから販売までの運営を行うショップがあり、社会的・経済的・文化的・精神的活動に住民自身が積極的に参加できる仕組みがつけられている。



98

## 日本の代表例



包摂的で、安全かつレジリエントで、持続可能な都市及び人間居住を実現する。

建築環境は、持続可能な都市やコミュニティの発展にとって極めて重要である。



45

## NEXT 21

11-2

大阪府大阪市  
内田祥哉, 箕根夫, 高田光雄 (大阪ガス NEXT21 建設委員会)  
大阪ガス  
Tennouji, Osaka City, Osaka  
Yoshichika UCHIDA, Kazuo TATSUMI, Mitsuo TAKADA et al.  
Osaka Gas Corporation  
1993

## 取組課題

地球環境時代の都市住居は、構造・住戸計画・緑化計画・廃棄物処理設備計画・省エネ計画を検討し、住み手と一体となった検証を継続することが大事である。

地球環境的な配慮にとどまらず、生活の変化に対応するため、住戸の可変性の確保と建物の長寿命化も同時に図る必要がある。

## 貢献内容

環境保全と省エネルギーの手法を駆使した実験集合住宅。16戸に所有企業の社員と家族が住みながら、長期にわたって実地検証する試みである。その主な試みは3つ。

1つ目は住棟全体の緑化で、竣工後3年には植栽による熱環境調整効果が確認された。

2つ目は燃料電池を軸とするコージェネレーションで、太陽光発電と合わせ一次エネルギーの27%削減が達成された。

3つ目は内装を構造体から離すスケルトン・インフィル方式で、生活嗜好や家族構成の変化などに応じて内部の全面的な変更を可能にする。

その他、生ごみの水・二酸化炭素・窒素への分解、雑排水の中水としての再利用、配管のフレキシブル化などが試行されている。



09

## 日本の代表例



持続可能な生産と消費のパターンを確保する。

建設産業は、廃棄物を生み出す主な産業の一つである。



46

## 犬島精錬所美術館

Inujima Seirenscho Art Museum

12-1

岡山県岡山市  
三分一博志 (三分一博志建築設計事務所)  
アート: 柳幸典  
福武財団  
Okayama City, Okayama Pref.  
Hiroshi SAMBUICHI  
Art: Yukinori YANAGI  
Fukutake Foundation  
2008

## 取組課題

瀬戸内海の小さな島である犬島に、20世紀初頭、銅の精錬所が建設されたが、10年後に操業が停止され、その後100年近く放置され、廃墟となっていた。

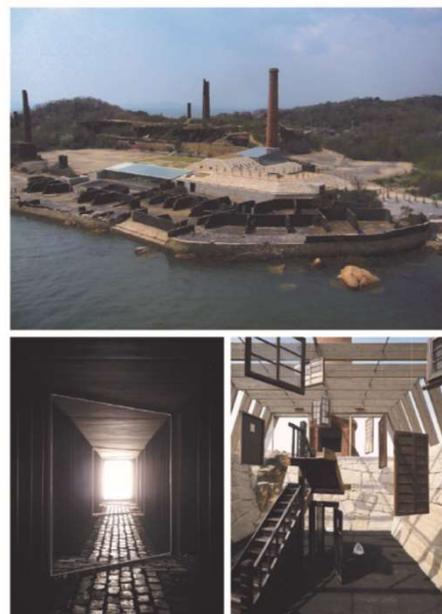
この近代化産業遺跡を新規の大規模な建設を伴わず、美しい自然景観と馴染むようなかたちで再利用することで、負の遺産を解消する方策が望まれていた。

## 貢献概要

「在るものを活かし、無いものを創る」という理念のもと、精錬所の遺構を生かし、最小限の手を加えて、現代アートを鑑賞する空間に仕立てている。

既存の煙突が上昇気流を生み、内部に風の流れをつくり出す。風の速度や温度は太陽光による熱に左右されるが、その調整は機械によらず、人力による窓の開閉で行われている。内部に注ぎ落ちる天空光は鏡に幾重にも反射して、地中の細長い通路を照らし、ドラマを生む。

訪問者は、美しく優しい表情の海の光景と強靭な工業的構築物の対比の中で、風と光に導かれ、アートを鑑賞しながらゆっくりと巡り歩く。



09

## 日本の代表例

13 気候変動に  
具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策をとる。

建築環境のCO<sub>2</sub>フットプリントは削減しなければならず、建築やまちを変動しつつある気候に適応できるようにしなければならない。



47

千年希望の丘  
Millennium Hope Hills

13-3

宮城県岩沼市  
岩沼市  
Iwamura City, Miyagi Pref.  
Iwanuma City  
Iwanuma City  
2017

## 取組課題

東日本大震災の大津波により流された家屋の基礎などの震災廃棄物や津波堆積物(震災がれき)をどう処分するか、同時に、大津波の痕跡や被災者の想いを後世に伝え、震災の記憶や教訓を国内外に発信する手法としてどのようなことが考えられるかが重要なテーマだった。

## 貢献内容

岩沼市は津波による被害を減らすため「減災」という考え方のもと、防潮堤・千年希望の丘・貞山城の護岸・嵩上げ道路からなる「多重防御」による津波対策を導入した。

このうちの「千年希望の丘」では、津波により人が住めなくなった土地を活用し、沿岸約10kmにわたって6つの公園と園路を整備。丘と丘を園路(30万本の植樹による緑の堤防)でつなぐことで、津波の力を減衰させる役割を持たせるほか、いざという時の避難場所にもなる。

丘の土台などには人々の生活の証である震災がれきが用いられており、集落跡地などの遺構の保存とともに、メモリアル公園と防災教育の場として活用されている。

名前には、千年先まで子供たちが笑顔で幸せに暮らせるようにという願いが込められた。



107

## 日本の代表例

16 平和と公正を  
すべての人に

議会、裁判所、公立図書館は、公正で平和な社会の要であり、一方地域のコミュニティ・センター、祈りの場、避難所は包摂的で思いやりのある社会に対する市民の係わりを代表する。



48

シティホールプラザ アオーレ長岡  
City Hall Plaza Aôre Nagaoka

16-1

新潟県長岡市  
隈研吾(隈研吾建築都市設計事務所)  
長岡市  
Nagaoka City, Niigata Pref.  
Kengo KUMA  
Nagaoka City  
2012

## 取組課題

行政と立法の施設が建築のあり方によって政治的な透明性を表現することで、市民との信頼関係の構築に貢献することができる。建築本来の重要な社会的役割を果たすことができる。

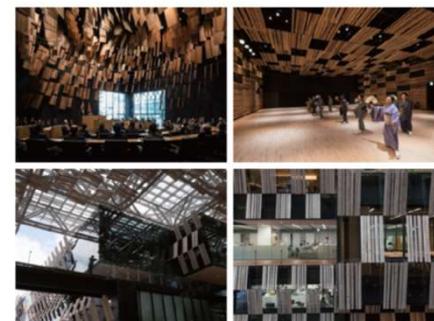
現代の成熟した社会においては、権威をモニュメンタルに表現するのではなく、行政・立法と市民との関係が対等で公正なものであることを建築で表現することが重要である。

## 貢献内容

市民が誰でも行き来できる施設中央の公共空間に、市長室も議長室もガラス越しに面しており、来訪した市民からよく見えるだけでなく、市長と議長が互いに見合う関係となっている。

議場は、市民がふだん横を通り抜ける1階のガラス張りの外壁に面し、権威の象徴となりがちな議会が物理的にも市民と同じレベルにある。行政も立法も、市民との距離が近くなるよう設計されている。

新潟県長岡市の市役所本庁舎のほか、アリーナ、市民交流ホールで構成されており、3棟で囲まれた中央の屋根付きの空間「ナカドマ」が、市民が自由に入ることのできる都市の土間空間として多目的に利用されている。



## 日本の代表例



都市・まち・建築は、多くの人の手によって作られる。それと同じように、17のSDGsに到達するには、当事者の一人だけでは不可能であるから、パートナーシップで協働することが不可欠である。



49

### ボランティア建築家機構 Voluntary Architects' Network (VAN)

17-1

拠点：東京都世田谷区  
坂 茂 (坂茂建築設計)  
Based in Setagaya Ward, Tokyo  
Shigeru BAN  
1995 -

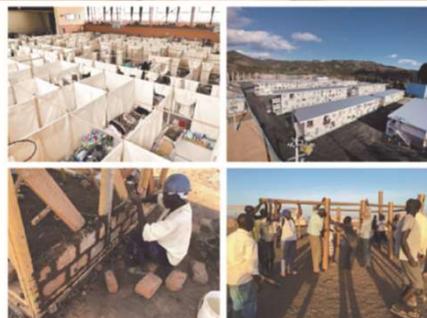
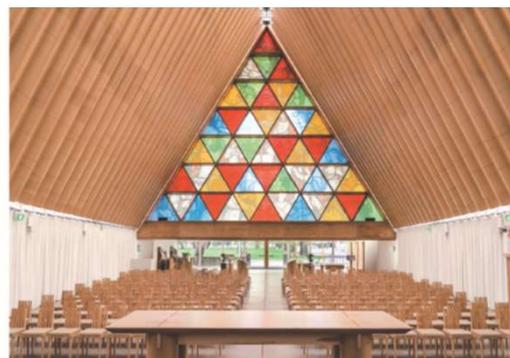
**取組課題**

建築家である坂茂が阪神・淡路大震災(1995)後、被災地支援を目的として立ち上げたボランティア組織(現在はNPO法人)。国内外における災害後の住環境の改善を図るために、仮設住宅や教会、集会所などの建設支援を実施した。2004年の中越地震以降、避難所におけるプライバシーを確保するための紙管製の間仕切りを提供し、これまでに多くの実績を残している。

**貢献概要**

VANの国内発の活動は、東日本大震災時から提供を開始したプライバシー保護のための紙管と布による「避難所用紙の間仕切りシステム」、および同震災後に実現したコンテナを市松状に積み上げた3階建の「女川町多層コンテナ仮設住宅」がある。

海外での活動は、UN-Habitatと行っているケニア、カクマ・キャンプでの定住住宅のプロトタイプ開発がある。紙管フレームを木の枝で結ぶことで、住民でも施工できる現地工法を組み合わせたタイプ、2015年のネパール地震後に初めて用いられた木フレームを構造に、ブロックを間仕切り壁に使用したタイプ、スリランカ、キリンダ村復興計画でも用いられた構造・仕切り壁ともに地元の土を圧縮した土ブロックを使用したタイプの3タイプある。



15

## 日本の代表例



都市・まち・建築は、多くの人の手によって作られる。それと同じように、17のSDGsに到達するには、当事者の一人だけでは不可能であるから、パートナーシップで協働することが不可欠である。



50

### 環境共生住宅推進協議会 Environmentally Symbiotic Housing Council

17-3

東京都新宿区  
一般社団法人環境共生住宅推進協議会  
Shinjyuku-ward, Tokyo  
Environmentally Symbiotic Housing Council  
1990-

**取組課題**

1992年のリオにおける「地球サミット」を前に、建設省住宅局(当時)が自治体、関連業界、専門家、研究者、建築家等をえね、1990年に創設した組織。

<環境共生住宅>の定義は、「地球環境を保全する観点から、エネルギー・資源・廃棄物等の面で十分な配慮がなされ、また周辺の自然環境と親密に美しく調和し、住み手が主体的にかかわりながら、健康で快適に生活できるよう工夫された、環境と共生するライフスタイルを実践できる住宅、およびその地域環境」。

現在の活動目標は、普及推進と広報活動の強化、情報収集・調査と結果の発信、関連ネットワークの拡大・活性化等である。

**貢献内容**

創設以来30年後の現在も、事例検証、ソフトの開発、出版活動、講演会、見学会等、全国レベルの活動を活発に継続し、言わば日本の住まいとまちづくりに関するSDGsの持続的実践・普及に貢献している。

その初期のモデルプロジェクトである公営住宅+デイホームの複合施設「世田谷区深沢環境共生住宅」は、周辺環境の詳細な調査・分析に基づく、住民参加型で総合的な建て替えエコ・ビルジの成功例として、国内外で注目、評価された。



19



## 5 添付資料



JIA2019青森大会  
 国際会議：IPF 2019 in Hirosaki  
 「SDGs と建築家」  
 における議論のまとめ

司会 & モデレーター：岩村 和夫



51

### JIA IPF(International Presidents' Forum)とは

JIA建築家大会は毎年支部の主催で開催されるが、その開会式に先んじてIPFの場が持たれ、午前中の約2時間にわたって意見が交わされる。そこではJIAと親交のある海外建築家団体の会長等が、その時々的重要なテーマに関する組織的取り組みのプレゼンと議論の主役となる。

会議の外題についてはJIA本部の国際委員会が精査し、事前に出席者とやりとりをして準備するとともに、当日会議の運営にもあたる。

筆者は、今回を含めこれまで何度か司会やモデレーターとして関わってきた。残念ながら、言語等の問題から国内からの参加者は少なく、その存在自体さえあまり知られていない。

今年は近年世界中で話題となっている「SDGs(持続可能な開発目標)」と建築家との関係性を巡って、去る10月18日に弘前市で開催された。折しも「SDGs建築ガイド日本版(和英併記)」が10月初旬にJIAから発刊された直後のことであった。

52

## SDGsと建築家: 外題解説

「17のSDGs」は、2015年に国連が掲げた野心的かつ崇高な目標の声明である。そのいくつかは建築環境のデザインと直接的に関連している。また、その他は建築やランドスケープのハードウェアから間接的な影響を受けるだけの場合もある。

SDGsは極めて幅広い人間の生活領域をカバーしており、その声明の内容は必然的に一般的で曖昧である。それ故に、建築家はどのような計画をしようが、一つか二つ、あるいはそれ以上の目標を満たし得るような解釈を、常に見出すことができる。

仮に、ある目的のための一連の達成基準が曖昧にすぎ、したがってそれを満たすことが容易だと、その目的は本質的ではないブランド化のためだけに利用される恐れがある。しかし、SDGsは人類が直面する重大な課題に取り組み、我々がデザインの職能を通して前向きな結果や効果をもたらすべき、一連の重要な価値観を指し示している。

その為には、達成すべき目標の深い理解と、それぞれの目標の真に重要なことを成し遂げうる、我々の職能に関する創造的思考が不可欠である。

(文責: JIA国際委員会 / 杉山久哉、岩村和夫)

## SDGsと建築家: 発表者への事前の問いかけ

問1:

あなたの国や地域ではSDGsに対する熱意があふれ、プランナー、建築家、デザイナー、政策立案者の間の議論や実践事例は豊富か？もしそうなら、その成功した事例について説明されたい。

また、そうでない場合、それはなぜか？

問2:

あなたの組織は建築家の職能団体としてSDGsの理解を広めるプログラムを提供し、建築に適用するための教育を行っているか？

行っている場合、その内容はどのようなものか？

(文責: JIA国際委員会 / 杉山久哉、岩村和夫)

## JIA IPF 2019 in Hirosaki 発表者

Speaker-1:



**Masaharu Rokushika**

President, JIA  
(The Japan Institute of Architects)



Speaker-2:



**William J. Bates**

President, AIA  
(The American Institute of Architects)



Speaker-3:



**Thana Chirapiwat**

Vice-President, ASA  
(The Association of Siamese Architects under  
Royal Patronage)



Speaker-4:



**Seok Jung Hoon**

President, KIRA  
(Korea Institute of Registered Architects)



55

## JIA IPF 2019 in Hirosaki 発表者 (続き)

Speaker-5:



**Kang Chul Hee**

President, KIA  
(Korean Institute of Architects)  
Member, UIA SDGs Commission



Speaker-6:

Sveriges Arkitekter

**Tatjana Joksimović**

President, SA  
(Architects Sweden)



Speaker-7:



**Sathirut Nui Tadanand**

Past President, ARCASIA  
(Architects Region Council Asia)



MC & Moderator:



**Kazuo Iwamura**

Past Vice-President, JIA  
(The Japan Institute of Architects)  
& UIA Region IV  
(International Union of Architects)  
Member, UIA SDGs Commission



56

## JIA IPF 2019 で交わされた議論におけるキーワード群

各発表者からは、それぞれの国や地域の多様な特性や社会・文化を反映したプレゼンがあった。以下はその中から抽出した、SDGsの課題や取り組みを象徴するキーワード群である。

*Accessible* 誰でも使える、*Adaptive* 適応力のある、*Affordable* 入手し易い、*Awareness* 認識、*Biodiverse* 生物多様性、*Clean* 汚染のない、*Collaborative* 共同性、*Connected* 繋がりのある、*Creative* 創造的な、*Cultural* 文化的な、*Decent* 品格のある、*Durable* 冗長な、*Economic* 経済的な、*Ecological* エコロジカルな、*Environmental* 環境的な、*Equitable* 公平な、*Healing* 癒し、*Healthy* 健康な、*Human* 人間的な、*Inclusive* 包摂的な、*Innovative* 革新的な、*Involved* 参加的係り、*Low-cost* ローコストな、*Recycling* リサイクル、*Regenerative* 再生力のある、*Renewable* 再生可能な、*Resilient* 復元力のある、*Safe/Secure* 安全な、*Social - responsible* 社会的責任、*Sustainable* 持続可能な、*Symbiotic* 共生的、*Transparent* 透明性のある、*Universal* ユニバーサルな、*Upcycle* アップサイクル、*Vernacular* バナキュラーな、*Vital* 生命力溢れる、*Well-being* 福祉、*etc.*

57

## JIA IPF 2019 「SDGsと建築家」で交わされた議論におけるキーワード群

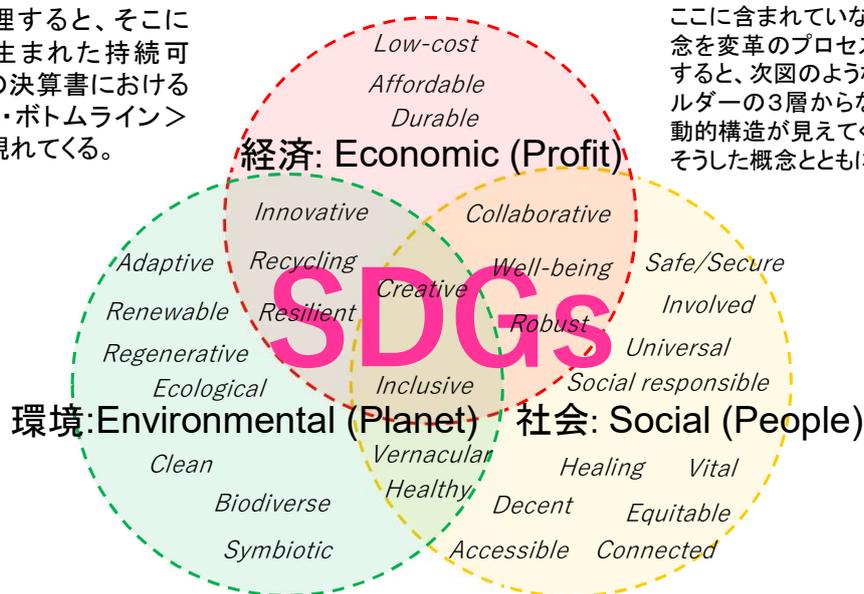


58

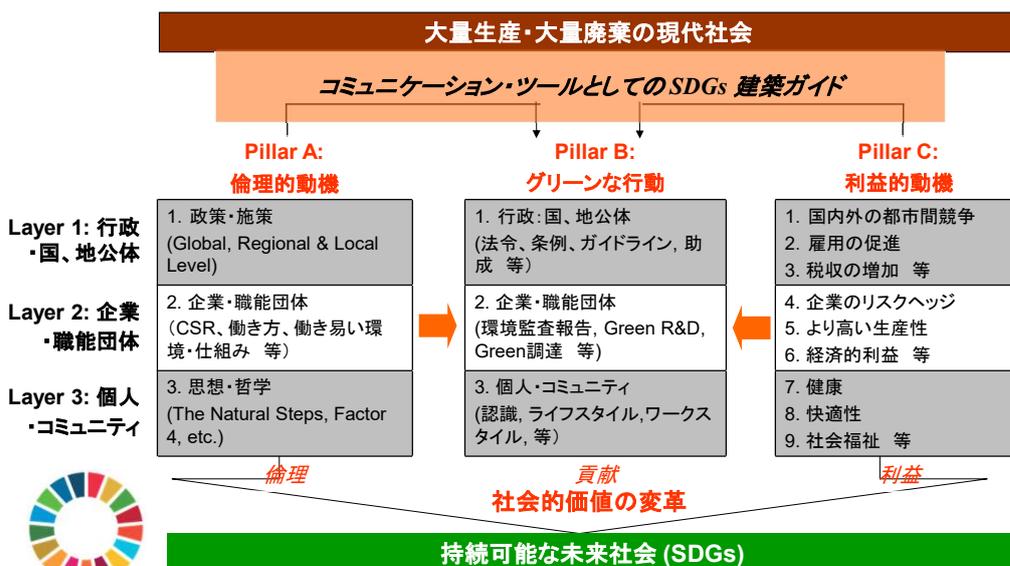
「SDGsと建築家」のキーワード群と、持続可能な<トリプル・ボトムライン>

以上を整理すると、そこに1997年に生まれた持続可能な企業の決算書における<トリプル・ボトムライン>の構造が現れてくる。

ここに含まれていない時間的概念を変革のプロセスとして表現すると、次図のようなステークホルダーの3層からなる3本柱の動的構造が見えてくる。SDGsはそうした概念とともにある。



SDGsを達成するための社会変革に至る3本の柱



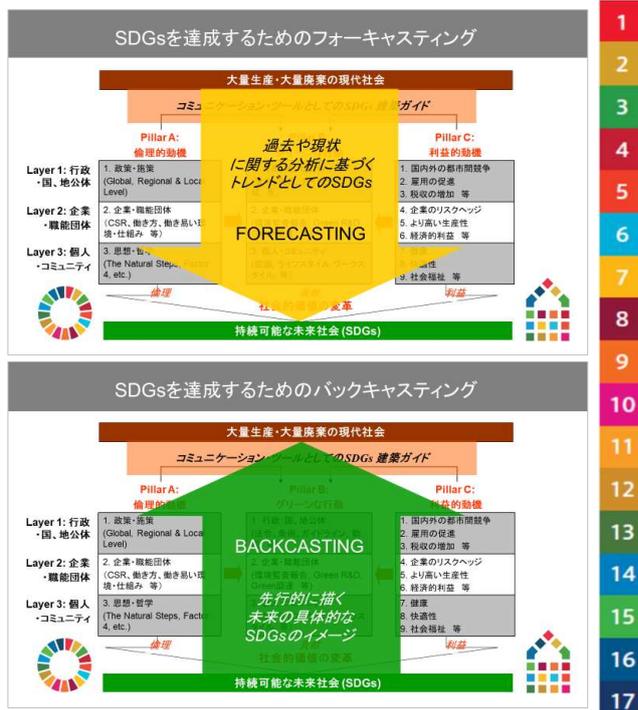


## SDGsを達成する フォーカスティングと バックキャストिंग (続き)

我々建築家やプランナーは、計画・設計・デザインの対象が何であれ、常にこの2つの時間的方向性を持った取り組みを生業(なりわい)としている。

要は、そうした達成目標と方法論を認識しているか否かであると思われる。

©Kazuo IWAMURA 2019



63

## 建築環境によってSDGsの達成を

ForecastingとBackcasting  
による社会・文化の変革を通して、  
世界の誰一人も取り残さずに。



岩村 和夫

[www.lwamura-at.com](http://www.lwamura-at.com)

64